

出席者 大槻教育長、深堀職務代理者、西家委員、中西委員、小谷委員、木村委員

教育委員会事務局 辻教育次長、東部長、上田指導監、鍛冶次長、永井室長、奥課長、隅埜課長、五島主幹

	議題	要旨
案件 1	令和 7 年度 全国学力・学習状況調査について	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無解答率や授業改善の取組状況については、一定改善が見られているものの、平均正答率そのものの結果については、対府比 1 以上を達成できていない</li> <li>・平均正答率の経年推移を分析すると、イレギュラーな年度もあるが、小学校では対府比 0.96 から 0.99、中学校では対府比 0.95 から 0.98 の、ほぼ同じ範囲に留まっている</li> <li>・小学校では 20 校中 12 校が府平均を下回っている</li> <li>・過去 5 年の傾向を見ると、府平均を上回っている学校は、いずれの年度も府平均より上の範囲で、下回っている学校は、府平均より下の範囲で学力が推移しており、年度によって大きく変化するものではなく、同じ範囲で学力が推移している</li> <li>・中学校では 10 校中 5 校が府平均を超えているものの、それ以外は下回っており、小学校と同様、概ね同じ範囲で学力が推移している</li> </ul> <p>○今後の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上を進めるうえで、これまで、市全体で様々な施策、取組みを展開してきたが、それらの取組みの多くは、公教育の考え方を踏まえ、平等の支援として一律のものが多かった</li> <li>・取組みを行ってきたものの、結果が表れない状況を打開するためには、全学校への一律の支援だけでなく、学校の課題に応じた個別最適な伴走支援へと大きくシフトしていく必要がある</li> </ul> <p>→効果的な取組みについては継続実施し、市全体へ広げるとともに、学校の実態に応じた個別最適な伴走支援を実現できる体制や予算編成等も考慮する</p> <p>●委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語以外の教科でも、国語力を必要とする問題が多いため、文章を読む力を養うことが大事</li> <li>・個別最適な伴走支援という考え方はとても良いと思うが、対</li> </ul>

		<p>策について具体的な検討を進めるため、外部有識者等との意見交換の場が求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けた取組みスケジュールを早急に立てる必要がある</li> <li>・いずみ希望塾の効果検証も引き続き行い、検討材料としていただきたい</li> <li>・学力向上のための方法論を議論することも重要だが、こどもたちに、「なぜ勉強しないといけないのか」という観点からアプローチし、勉強することに興味を持ってもらうことも重要</li> </ul>
--	--	--